

GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS: Global Product Strategy)に基づいて、当社が販売する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全性データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(CSR)に代わるものではありません。本製品のお取り扱いに際しては、当社が発行する SDS をご確認ください。

記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

製品名 (PRODUCT NAME)

スピログリコール

製品の概要 (GENERAL STATEMENT)

スピログリコール は白色で無臭の固体です。主に、工業用に広く用いられています。

製造時や使用等では安全性データシート(SDS)に基づいた適切な保護具の着用、局所排気の適用が推奨されます。国内では作業環境許容濃度は設定されていないため、リスク評価で用いた指標などを参考に、必要に応じてばく露濃度を管理・制御することが推奨されます。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をすることが推奨されます。

また、適切な排ガス・排水処理設備を設置し、環境への負荷を最小化するために漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨されます。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

組成

名称	CAS RN.	官報公示 整理番号	含有量	備考
スピログリコール	1455-42-1	化審法: (5)-5567 安衛法: 8-(5)-161	98%以上	

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途	ポリマー原料
-----------	--------

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

外観(物理的状態)	固体(粉末)
-----------	--------

色	白色
臭気	無臭
pH	知見なし
比重(相対密度)	0.3
融点/沸点	200°C / 363°C(102.6kPa)
可燃性/引火性	引火点 201°C(セタ密閉式)
爆発範囲	上限:知見なし/ 下限:40~45g/m ³
自然発火温度	知見なし
蒸気圧	2.1 × 10 ⁻⁸ Pa(25°C)
蒸気密度	1.20(21°C)
水溶解性	水: 0.1g/100g(50°C)、0.168g/lit(20°C) メタノール: 4.4wt%(30°C) DMF: 12.0wt%(30°C)
オクタノール-水分配係数	logPow = 1.63
分解温度	知見なし
その他	最小着火エネルギー: 3mJ 以下

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
急性毒性(吸入)	(気体)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2}) (蒸気)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2}) (粉じん)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2}) (ミスト)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
急性毒性(経皮)	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
皮膚腐食性/刺激性	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	眼刺激(区分 2B)
呼吸器感作性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
皮膚感作性	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
生殖細胞変異原性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
発がん性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
生殖毒性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
誤えん有害性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})

備考	<p>*¹ GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p> <p>*²</p> <p>区分に該当しない: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合や、GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないものなど</p> <p>分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合</p>
----	--

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

影響評価	結果(GHS ^{*1} 危険有害性分類)
水生環境有害性(急性)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
水生環境有害性(慢性)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
オゾン層への有害性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
備考	<p>*¹ GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p> <p>*²</p> <p>区分に該当しない: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合や、GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないものなど</p> <p>分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合</p>

環境動態	結果
環境中の移行性	水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も低いと推定される
生分解性	生分解しにくい
生物蓄積性	生物蓄積性は低い
PBT/vPvB の結論	PBT、vPvB に非該当である
備考	<p>*PBT: Persistent, bioaccumulative and toxic(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)</p> <p>**vPvB: very Persistent and very Bioaccumulative(環境中に非常に残留しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する)</p>

ばく露 (EXPOSURE)

作業員および消費者、環境へのばく露は、以下の取扱い時におこる可能性がある。

詳細	No.	当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路)
作業員ばく露	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。 ・ばく露の機会のあるバッチおよびその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出および装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。 ・専用設備のない状態での船舶/大容量コンテナへもしくはからの物質

		や調剤の移し替え作業において、塵/蒸気/エアロゾルの発生、流出、装置の清掃等に伴い、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。
消費者ばく露	2-1	消費者がばく露される可能性はほぼない
環境ばく露	3-1	・産業における物質の製造工程から、主に大気及び水環境へ放出される可能性がある。 ・モノマー等の合成における原材料等、他の物質製造のための中間体として使用され、主に大気及び水環境へ放出される可能性がある。
注意事項		他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業員ばく露	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・製造、充填、重合、投入、合成反応の作業の際は、適切な保護具を着用する。 ・重合の作業においては局所排気を適用する。 ・現在、国内では作業環境許容濃度は設定されていないため、リスク評価で用いた指標などを参考に、必要に応じてばく露濃度を管理・制御する。 ・作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をする。
対消費者ばく露	2-1	消費者がばく露される可能性はほぼない
対環境ばく露	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な排ガス処理施設を設置する。 ・適切な排水処理施設を設置する。 ・漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注意を払う。
その他取扱注意事項		熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざける
注意事項		・通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、SDSの4, 5, 6, 7, 8, 13, 14項を参照して下さい

(注) No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している

法規制情報／分類・ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

法律	規制状況
労働安全衛生法	適用なし
毒物及び劇物取締法	適用なし
化学物質排出把握管理促進法	適用なし
消防法	適用なし

GHS 分類情報

ハザード項目	分類結果(危険有害性情報)
可燃性固体	分類できない
急性毒性(経口)	区分に該当しない

急性毒性(吸入)	(気体)区分に該当しない (蒸気)区分に該当しない (粉じん)区分に該当しない (ミスト)区分に該当しない
急性毒性(経皮)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分 2B
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分に該当しない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性(急性)	区分に該当しない
水生環境有害性(慢性)	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル情報

絵表示またはシンボル	なし
注意喚起語	警告
危険有害性情報	眼刺激
注意書き	使用前に本安全データシート(SDS)に記載された全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。 [予防策] ・取扱い後は手/顔をよく洗うこと。 [対応] ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

出典 (REFERENCES)

三菱ガス化学株式会社(2021)GPS/JIPS 対応リスク評価
三菱ガス化学株式会社作成 SDS(改訂日 2018年6月6日)

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名 三菱ガス化学株式会社
住所 東京都千代田区丸の内2-5-2

担当部門・担当者
電話番号/FAX 番号

基礎化学品事業部門 基礎化学品第二事業部
03-3283-4808/03-3214-0930

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2021年3月31日発行

改訂:

改訂日	項目	改訂箇所	版

特記事項:

なし